

『摂南大学教育学研究』第15号発刊にあたって

「摂南大学教育学研究」編集委員会  
委員長 吉田 佐治子

このたび、『摂南大学教育学研究』(Bulletin of Educational Research of Setsunan University) 第15号が完成いたしましたので、発刊いたします。

本誌は、摂南大学教職支援センターの教員及び教職課程を履修した卒業生を中心に、教育の理論および実践的交流誌として発刊するもので、教職支援センターの研究事業として15年の歳月を刻むこととなります。

2018年も、多くの出来事がありました。教育に関わる者として、特に印象に残っているのは、大学入試不正、スポーツ界の不祥事、災害です。

大学入試不正、スポーツ界の不祥事については、もちろん、どちらもあってはならないことではありますが、それとは別に、前者では、大学や大学教員がどのような学生に入学してほしいと思っているのかについて、後者では、「指導をする立場の者」と「指導を受ける立場の者」との関係について、改めて考えさせられました。災害に関しては、子どもを守るためにおとながしなければならないこと、また、被災後の地域と学校との関係についても、考えることとなりました。

教職に就くことをめざしている学生にとっても、こうしたことは余所事ではありません。自分の問題として考え続けてほしいと思います。私たちも、考えるための材料を提供し続けていかなければなりません。

本学の発展と共に教職課程の教育内容がますます充実していくための一助となるために、この『摂南大学教育学研究』が役立つことを願っています。

2019年1月31日